

## 知床世界遺産候補地地域連絡会議（第3回）

### 議事概要（案）

平成 15 年 12 月 5 日（木）13:30～15:40

斜里町ゆめホール知床内公民館ホール

#### 1. 開会

地域連絡会議設置要綱第 4 条に基づき、出席を求めた水産庁より挨拶

#### 2. 議事

(1) 一般からの意見募集の集計結果について説明

(2) 管理計画（案）について

事務局：一般からの意見募集等を踏まえ、前回議論した管理計画（案）からの変更点について説明

#### 【主な意見等】

緩衝地域は国立公園の普通地域に相当すると思われるが、世界遺産の緩衝地域は国内で統一された扱いがあるのか。また、普通地域の規制内容に変更は生じるのか。

環境省：知床の場合は国立公園特別地域も緩衝地域に含まれている。また、白神山地及び屋久島では海域の遺産登録はないが、知床の場合は、国立公園の海面普通地域も緩衝地域とし、一定の行為制限が可能であると考えている。なお、普通地域の規制内容の変更は考えていない。

P.21 の「(6) 調査・モニタリングイ(e)海生哺乳類、海鳥類」の項目は記載が十分でない。近隣諸国の海域における資源調査が望まれること、生息状況だけでなく海生哺乳類の行動、摂餌・食性、種間競争に関する調査の必要があること、情報収集だけでなく研究が重要であることの記載も必要である。また、漁業関係者は上述の「関連機関、研究者、NPO 等」に併記するのが適当である。

環境省：貴重な意見と受けとめ、反映したい。

冬期利用について、これからの可能性があるので規制を強くしないでいただきたい。

環境省：管理計画では大まかな方針を示すにとどまっている、個別の具体的ルール等については、今後検討していきたい。

NPO、市民活動を担う団体など「団体」という表記に統一性がない。

環境省：次回までに用語の整理をしたい。

流氷上での体験活動とは流氷ウォークやダイビングを示していると思うが、それらについての

具体的なルール、例えばダイビングは漁網から何メートル離れる、というルールができるのか。また、野生動物の規制にはクリオネも含めているのか。

環境省：管理計画ではルールの具体的内容まで決めるわけではなく、ルールを作成する旨を示している。具体的内容については今後関係者で検討していく。

11月30日の新聞に「特に海域の緩衝地域を核心地域と同格の扱いをする」という記事が掲載されていた。今後、海域の緩衝地域を核心地域の規制内容と同等の内容に変えていくのか。

環境省：従来説明してきたとおり、既存の規制の枠組みの中で遺産登録を目指すこととなるので、海面の取扱いも従来どおりである。

専門家による委員会を作るのは構わないが、専門家による協議だけでなく、本会議のように地域にも検討の場を与えることが望ましい。

環境省：地域連絡協議会は、遺産登録後も継続させていく。研究者による委員会とは相互補完関係となる。

海洋油汚染、山火事等の危機管理に対する記載が欠けている。

林野庁：国有林内の山火事については通常の管理業務として対応しているところであり、管理計画（案）では国有林の管理や整備・保全といった記載に山火事の対応についても含まれている。また、山火事が発生した際には、必要な緊急連絡がとれる体制を整備しており、大規模な場合などは北海道等へ対応の要請をすることもある。

P.13の「河川環境の保全」において、「知床半島ではほとんどの河川で河口から上流部までオシヨロコマが優占している」とあるが、「優占」とまでは言えないのではないか。

環境省：専門家に話を伺って記載を検討する。

P.10の「一次産業との両立」において、「水産業にあっては野生動物との共存に配慮し」という表現があり、これはサケ科魚類が遡上して陸上生態系を支えていることを指していると思われる。しかし、水産業として陸上の野生動物との共存という意識はなく、不適當である。ここでは、海生哺乳類とすべきではないか。

環境省：海の生物も含めてここでは野生動物と記載している。

遺産登録後も地域連絡会議は継続されるということであるが、要望に応じて開催する、あるいは定期的に開催するなど、開催の形態はどうなるのか。白神や屋久島での状況も知りたい。

環境省：管理計画のとりまとめが終了してもその実施に向けた検討課題が多いので、引き続き会議を開催したい。スケジュールや形式は事務局で検討したい。なお、白神と屋久島での状況については調べて報告する。

遺産登録がゴールであるとは考えていない。白神や屋久島のように管理計画が10年間変更されないという状態にはしないで頂きたい。

知床は、年間約 200 万人もの観光客が訪れながらも原生的な自然を保護してきた地域であり、白神山地や屋久島とは状況が異なる。環境大臣が、エコツアーのモデル事業を知床で実施する発言を行ったこともあり、新しい自然保護の考え方を普及する良い機会であるので、そのことについて前面に出すべきではないか。

環境省：日本ではまだエコツアーの明確な概念が定まっていない状況であるが、現在中央で行われているエコツーリズム推進会議において推進方策が検討されている。この検討と合わせ、知床における質の高い自然体験のあり方について検討していきたい。

### (3) その他

事務局：第 4 回地域連絡会議は平成 15 年 12 月 15 日に羅臼町での開催を予定しており、最終的な管理計画のとりまとめを行う。また、パブリックコメントへの回答も併せて示したい。

## 3. 閉会